



ロータリー：
変化をもたらす

宇都宮ロータリークラブ会報

RIテーマ「ロータリー：変化をもたらす」

宇都宮ロータリーテーマ「一步前に進みましょう」

第2550地区ガバナーテーマ「チャレンジ&イノベーション」

～挑戦と変革で切り拓く、第2550地区の未来～

2017～2018年度RI会長イアンH. S. ライスリー 宇都宮会長 印出井敏英

第2550地区ガバナー 太城敏之 幹事 飯村 悟

例会日 火曜日12:30 会場 宇都宮東武ホテルグランテ 宇都宮市本町5-12

事務所 宇都宮市江野町1-12 榎木実業ビル2階 TEL 028-666-0555

E-mail u-rc01@silver.plala.or.jp FAX 028-666-0333

(2018)平成30年2月6日 No. 3231回 2017～2018年度(第27回会報)

会員数106名 出席者68名 出席率70.1%

矢冶和之委員長



皆さん、こんにちは。親睦活動委員会です。本日、当例会場にご来訪の皆さまをご紹介をさせていただきます。まずは本日の卓話をしていただきます、自衛隊栃木地方協力本部長でいらっしゃいます奥村晶一さま。同じく自衛隊栃木地方協力本部の佐原秀克さま。同じく佐々木寿代さま。以上3名の皆さまです。どうぞよろしくお願いいたします。

司会 会長あいさつ。印出井会長、お願いします。

印出井敏英会長



皆さま、こんにちは。ちょっと寒さも緩んできてホッとしているところですけど、体調の方はいかがでしょうかね。本日はですね、自衛隊の方から国を守るというふうなことで卓話をお願いしております。いろいろ普段聞けないことが、まあねえ、秘密に掛からない程度で、お話いただけるのかな、と思っています。どうぞ、奥村さま、よろしくお願いいたします。

それから今度はロータリークラブの関係ですけれども、今ですね、台湾からのインターアクターがみえています。4日、5日、6日、7日、8日というふうなことで。そして、4日の日に歓迎会がありまして、昨日ですね、昨日はうちの方の提唱している文星附属高校との交流会、そして今日はですね、日光、湯元で。まあ台湾の方ですので雪はなかなかお目に掛かれないということでスキー。そして今日の夜は東京に戻りまして、ちょっと東京の観光をして帰るというふうなことで予定が組まれております。

台湾からですね、3470地区のガバナー、それから国際奉仕委員長がみえております。それから3470地区と3461、それから3490地区の合同でみえております。

皆さんには直接はお会いすることはないのかもしれませんが、非常に青少年、今度は教育ということで4月、3月の末からですね、宇都宮の方の提唱している宇女高のインターアクトクラブと文星芸大附属高等学校のインターアクトクラブが訪問をします。若い人にとっては、非常に。昨日も行く人とお話をしたんですけども、初めて海外に出るといふ人も多いようですので、宇都宮もこれ私とほかあと2人

ですね、引率をして行ってまいりますので、よろしく、ご協力お願いしたいな、と思っております。以上でございます。

司会 本日は第1例会ですので今月の誕生、結婚記念日のお祝いならびに、奥さま誕生日の報告があります。親睦活動委員会、お願いします。

印出井敏英会長 はい。それでは会員ご本人の誕生日、それから奥さまの誕生日、ならびに結婚祝い、誠におめでとうございます。乾杯をしたいと思いますのでご唱和、お願いいたします。乾杯。

それですね、この缶につきまして、あとでロータリー財団と米山委員会から皆さまにお願いがありますので、この缶は飲み干していただきたいなと思います。

司会 それではご着席ください。それでは、ごゆっくりご歓談ください。なお報告事項等ございましたら、お早めにSAAの方までお申し出ください。

司会 ご歓談中、大変恐縮ですが報告事項に入ります。本日、ご入会の方がおられますので推薦者よりご紹介をお願いします。

皆さん、こんにちは。今日入会されます菅谷隆臣さんをご紹介します。

菅谷さんはですね。中央小学校、旭中学、慶應義塾湘南藤沢高等部、それから慶應義塾総合政策学部、ご出身でいらっしゃいます。久々に中央小学校出身の会員が入会されました。お仕事はですね、学習塾、慶應受験会という、あの裁判所の前にある教育サービス産業ですね。そして受験コンサルは業界からも高く評価され、週刊ダイヤモンドや週刊東洋経済など、教育特集にもコメントや記事が何回も掲載されているという塾だそうであります。

昨年、亡くなられました館野会員のお孫さんにあたります。二女の方のご長男ということですが、お姉さんはですね渡辺さちこさん、栃木県会議員、そして義理のお兄さんが渡辺美知太郎参議院議員ということ。実は、お母さまとそれからお姉さまの渡辺さちこさん。お2人ともサンラフェールに交換学生として、親子2代そろって参加されていらっしゃいます関係で、ご自宅にも交換学生をサンラフェールから受け入れた経験をお持ちでいらっしゃいます。33歳独身ということですので、皆さんひとつ、宇都宮ロータリークラブの大谷翔平としてですね、ぜひ、かわいがっていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。それじゃあ、ごあいさつを。

菅谷隆臣氏



ただ今、ご紹介にあずかりました、私、株式会社エデュケーショナルブレインの菅谷隆臣と申します。先ほどご紹介ありました、裁判所前ですね、学習塾、慶應受験会こちらを主といたしまして教育サービス業の方を営ませていただいております。あのまずは、私の祖父であります館野弘一、宇都宮ロータリークラブの皆さま方には、生前、本当に大変お世話になりました。心より厚く御礼申し上げます。また葬儀の際にいたしましても、丁重なるご芳志賜りまして、重ねて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

祖父の話になってはしまうんですけども、本当に祖父はロータリー一筋といいですか。いろいろなさまざまな場所で役職を就かせてはいただいたものですが、45年間、ロータリークラブの方には皆出席というんでしょうか、はい。出席100%ということですね、常々本人も語っていたというところがございます。ただ本当

に、本人は胃がんで、東京で手術等もした経験もありますし。またやはり近年は入退院も繰り返してはいたんですけれども。どうしても火曜日になりますと、ベッドの上から突然といなくなるんですね。病院のドクターの方からも「いませんか」というふうにお話を聞くんですけれども、夕方、帰ってくると実はまあ、ロータリークラブに参加していたと、そんなふうにもうロータリー一筋の人でありました。病気もとにかく、はねのけてというところだった。ただ、残念ながら、昨夏ですね、どうしても肺炎の方を少し悪化させまして、残念ながらあの。今回もおそらく戻ってくるだろう、というところではあったんですけれども、他界という形になってきました。

そんな祖父からロータリークラブの方は少しばかりではありますけれども、話の方は聞いておりました、そこまで私も祖父の遺志を引き継げるかどうか、ちょっと不安にはなってはきますけれども。今回、石島さんの方からお話をいただきまして、今回、入会の方をお申し込みさせていただきました。

年齢として、まだまだ私、33というふうな年齢で。本当にこの歴史ある宇都宮ロータリークラブの会員として、本当に若輩者ですから、参加する資格があるかどうか、本当に随分、悩みました。

ただ、繰り返しますけれども、祖父が大事にしていたこのロータリークラブのところで、この遺志を引き継げるならばと思い、申し込みの方、させていただきました。

私もこのロータリークラブの奉仕の理念、こちらの方をしっかりと学ばせていただいて、皆さまのお仲間させていただいて、しっかりとこの後、精一杯、私も奉仕の心を持ってですね、活動させていただきたいと思っておりますので、どうぞ、これから、何卒、よろしく願い申し上げます。長くなりましたが、ありがとうございました。

司会 入会者に記念品の贈呈があります。会長、お願いいたします。

(記念品贈呈)

司会 委員会の所属はクラブ会報委員会にお願いします。次回の例会よりAテーブルの方にご着席ください。

続きまして幹事報告になります。飯村幹事、お願いします。

飯村悟幹事

少々、報告をさせていただきます。本日11時30分から当ホテルの1階におきまして、今年度第8回目の理事会が開催をされました。承認事項として、2月1日現在106名の会員であります。退会者は神宮あきら会員、ということで前回の理事会のときには名前が出ませんでしたので、今回の理事会で退会ということになります。

現在の入会申請者はございません。先週、例会が終了後、もう1人、ファクスが届いたと思うんですが、もう1人の方の入会待ちということでもあります。

協議事項としまして3点ありまして、1つがインターアクトクラブの、現在先ほど会長のごあいさつの中にありました台湾からいらっしゃっているインターアクターの方たちとの交流事業として、文星芸大附属高校でお茶会をしますということの協議が上がりまして承認をされました。

2つ目としまして、今度は反対にですね、地区の事業であります、インターアクトクラブが台湾の方に訪台という事業の上程がありまして、予算、行程等、承認をされました。

3番目にタイの国への消防自動車の引き渡し式につきましての旅費に関する協議がございまして、現在の当クラブの旅費の内規では、国際会議等、サンラフェール姉妹ロータリークラブとの交流でしか、こう明記をされておられませんので、その辺も少しくらいクラブとして考えるべきであるということ、行く訪タイ、バンコクに行く方々の名前が挙がりまして、その方々のご承認と、あとちょっと戻りますが、タイ、台湾に行く方々の3名でしたが承認をされまして、旅費に関しましては、少々お時間をいただいて理事会を中心にいろいろ協議をしていこう、ということに決まりました。

報告事項では、ロータリーレートは2月1日、今月は円高で110円パーUSドルということであります。

あともう1つ私からお願いなんです、皆さまの会社にですね、IMの案内がファクスで届いてると思うんですが、前回の例会でもご案内を差し上げましたが、市内10クラブが集まりまして、友情深める、情報交換をするという会合であります。ぜひとも入会3年未満の方はご出席いただいて友達の輪を広げていただければというふうに思います。登録費用は全員登録になりますので、クラブで一括して登録費用は払わせていただきます。懇親会もございまして、どうぞ奮ってご参加いただきたいと思います。現在、事務局の方に出席で返事をいただいている方は10名程度であります。もう少し増やさない、私、幹事首が飛んでしまいますので。どうぞ入会3年未満の方は強制という言葉はよくないので使いたしません、ぜひともご都合合わせていただき。あと諸先輩方もですね、どうぞ若い人を連れ立ってご参加いただければと思います。

理事会の皆さまはどうぞ、ちょっと考えてご参加いただければな、というふうに思っております。

幹事からは以上です。

司会 続きましてRIからのご報告がございまして、印出井会長、よろしくお願ひします。

印出井敏英会長 私の年度もですね、後半戦に入りまして国際会長のイアン・ライズリー会長よりメッセージが届いております。これはですね、内容は国際会長の方針に従って、一歩でも少しでも目標に向かってさらなる半年ですね、頑張ってください、というふうなことのメッセージでした。

ですから会員の皆さまも、どうぞその、国際会長の方針に基づきまして、一歩でもですね、近づけるようにご協力をいただければありがたいと思います。

それから、国際大会ですね、やはり参加をしていただきたいと思いますというのが、第2報ですけれども、届いておりますので、参加される皆さまは、どうぞ幹事の方に連絡をいただきたいと思います。

それからガバナー事務所の方からですね、半期の例会プログラムの提出というものがきておりますので、これは委員長さんをお願いをしております。

それからロータリーの友への原稿依頼というふうなことで、これも来ていますので、広報の方にお話をします。

それから2018年から2019年度会長エレクト研修セミナーが3月11日に開かれますので。今日は次期のエレクト幹事候補もちょっと欠席ですので、これはもう私の方から、もう随分前から決まっておりますので、出席というふうなことをお願いをしております。以上でございます。

司会 続きまして、委員会報告。米山記念奨学会委員会。三井委員長、お願いします。

三井勝滋委員長 こんにちは。私、米山記念委員会の三井です。よろしく申し上げます。今日、お知らせであがりましたのは、各テーブルの方にこちらのペーパーがいつてるかと、思います。一部行き渡ってない分は、レターボックスに2枚ずつは入っておりますので、そちらの方をご覧ください。

こちらの方ですね、ロータリー財団委員会と米山記念奨学会委員会の方で、こちらの方のペーパーを作りまして、皆さまにご協力いただきたいと思いますと思ひまして用意しました。

例年ですね、ロータリー財団委員会の寄付行為は目的がいつも、目標がいつも150ドルなんですけど、なかなかこの目標にも、100ドルぐらいですかね、毎年未達になっておりますし。米山記念奨学会におきましても、目標1万8000円のところ、1万3000円と、その辺の推移をしておりますので、こちらの方ですね、特に米山記念奨学会の方は、財団設立50周年ということで、会長の方からですね、ぜひ何か策を練ってですね、皆さんに協力していただくことはないかということでこちらの方を用意しました。

こちらの方はですね、この目標に向かって、今日、ちょうど乾杯の缶ビールが出ておりましたけど、ノンアルコールのビール、このようにですね、ちょっとまいていただいて、自宅あるいはオフィス、まあ自宅ですね、委員会の方がそういったこちらの方を用意して、お手元の小銭とかですね、そういったのをこうチップ開けたところに入れてもらって、それをですね、今2月ですので2月、3月、4月、3ヵ月にわたってこの目標を意識、持っていていただいて集めていただければと思ひてます。

こちらの方、あくまで会員の協力によって、寄付行為ですので、家族とかそういう、社員とかは別にしまして、本人の意識づけということで、こちらの方を使ひていただければと思ひてます。今日また、この後ですね、時間が切羽詰まっておりますので、3月4月、毎月ですね、またロータリー財団の方からも月々、ご報告したいと思ひてます。あと、集金の方ですね、名前書いて、集金の方法もまた、後ほどの報告でご紹介したいと思ひますので、ぜひ、皆さまのご協力よろしくお願ひいたします。

以上です。

司会 ニコニコボックス委員会のご報告ですが、お時間の都合上、次週に回させていただきます。続きまして、本日の例会プログラムのご紹介を松本委員長、お願いします。

松本委員長 皆さま、こんにちは。本日の卓話でございますが招待者卓話でございます。2月は平和と紛争予防、紛争解決月間ということでございますので、本日は自衛隊栃木地方協力本部長の奥村晶一さまをお招きしております。奥村さまのプロフィールを簡単にご紹介いたします。

ご出身が熊本県です。昭和53年に自衛隊に入られまして、その後、平成14年に市ヶ谷の内閣官房の内部部局、平成16年には陸上幕僚幹部、そこからですね、そのあと郡山、朝霞、仙台、埼玉と勤務されまして、平成28年の8月からこの自衛隊栃木地方協力本部の本部長を務めていらっしゃいます。演題は「周辺地域の情勢と自衛隊の取り組み」ということでお話をいただきます。それでは奥村さま、よろしくお願ひいたします。

(卓話)

奥村晶一自衛隊栃木地方協力本部長



皆さま、こんにちは。ただ今ご紹介いただきました自衛隊栃木地方協力本部長の奥村でございます。今日は栃木県、そして宇都宮市の各界のリーダーの方、あるいはオピニオンの皆さま方を前にして、このようなお話をさせていただく機会をいただきまして本当にありがとうございます。感謝申し上げます。

今日は、今、ご紹介いただきましたように「周辺地域の情勢と自衛隊の取り組み」ということでお話をさせていただきますけれども、内容が非常にちょっと堅い話ですね、面白くない話かもしれませんけれども、防衛問題、防衛省、自衛隊の防衛政策ですとか、自衛隊の活動っていうのは、そんなもんだ、ということでちょっとご勘弁いただいでですね、13時30分前までには終了したいと思っておりますので、どうぞお付き合いのほどお願いしたいと思っております。

私、今、松本局長さまからご紹介いただきましたけれども、昭和53年の4月に入隊します。じゃあ、お前は年、幾つだ、という話になるんでしょうけれども。自衛隊に入って40年になるんですけれども。私、大体、歴代の地方協力本部長は防衛大学の卒業者が就いているんですが、私はあの防衛大学の出身ではなく、旧軍でいうと幼年学校みたいな学校があるんですね。神奈川県横須賀市に少年工科学校という学校がございまして、今は高等工科学校という校名に変わってますけれども。そちらに入隊をいたしました。

したがって熊本県で中学校を卒業して、そしてその横須賀市の当時の少年工科学校というところに入りましてですね、高校生として湘南高校で学びながら、自衛官でもあるという非常に特殊な組織であります。まあ、ここは全国にそこしかないわけですが、まあ、そこで学びましてですね、昭和の56年、55、56年から北海道で勤務をはじめたということになります。

したがって私、本当に部隊の現場の第一線で、当時、北海道で勤務してました関係でですね、活動しておりまして。そこから、のちほどちょっとまた、途中ご紹介しますが、平成の元年に幹部自衛官としてのスタートを切りました。

従いまして、自衛隊の中では比較的珍しい存在かなと思っております。本当に現場の隊員とともに、同様のですね、活動をした経験もありますし、幹部自衛官として内部部局ですとか、陸上幕僚幹部、あるいは各地域の司令部、総監部、司令部ですね、こういったところで仕事をさせていただいたという非常にありがたいといえますか、たくさん経験をさせていただきました。それらを踏まえまして、今日、ご紹介をしたいと思っております。

はい。ああ、そうか、これか。今日、ご紹介するのは、4つであります。役割の変遷、そして、周辺地域の今の情勢、それを踏まえた自衛隊の取り組みと、そして最後に時間があればですね、人的基盤ということで、募集や女性自衛官の活躍の状況、こういったことをご紹介したいと思っております。

皆さま方のお手元にも資料は準備してございますので、そのスライドと資料を併用しながらご覧いただければと思います。まずは、防衛省自衛隊の役割の変遷でございます。ちょっとここ、非常に小さく、字になってますので、お手元の資料のがよろし

いかと思いますが。これあの、1991年から2000、今まで2017年、2018年までの防衛省自衛隊の役割の変遷を示した図であります。何を言いたいかといいますと、1991年というのは、まあ、平成に直すと3年になります。平成3年から自衛隊の役割がどんどんどんどん広がってきたということを言いたい資料でございます。

この1991年より以前、すなわち、昭和の時代、この時代は自衛隊は基盤的防衛力整備という名の下にですね「力の空白を作らない」ということを前提に陸海空自衛隊はそれぞれがしっかりと訓練を行うと。陸海空自衛隊ごとそれぞれ訓練を行って強い部隊を作ることによって防衛力、抑止力として機能を働かせようと、こういう時代が長く続いたわけであります。

そして1991年、平成3年、皆さまざま案内のように湾岸戦争が始まりまして、そこから本当に急速にですね、自衛隊の役割が変化してまいりました。

この下に座布団のようにこう積んでおりますのがこの自衛隊の役割でございます。昭和の時代、そして平成に入ってすぐごろ、私がちょうど幹部自衛官としてのスタートを切ったところになるわけですが、そのころは古典的な任務といいますか、日本の国の防衛、これはもう当然であります。災害派遣、こういったことが自衛隊の主たる任務、役割でございました。そこから湾岸戦争を契機にですね、どんどんどんどん国際情勢の変化に伴って、その役割が拡大してまいります。

まあ、分かりやすく申しますと、海外派遣が非常に常態化してきたと。まず最初に、海上自衛隊のペルシャ湾の掃海艇で機雷の掃海をですね、行ったのを皮切りに、平成4年にはカンボジアの陸上自衛隊として初めてのPKO活動として参加をいたしました。

そしてPKO活動を数回繰り返した後に平成13年9・11のテロが発生し、それを契機にですね、テロ対策特別措置法に基づく給油活動ですとか、陸上自衛隊のイラク派遣、こういったことが行われました。そして平成19年には陸海空自衛隊の運用を一元的にハンドリングしようということで統合幕僚監部という新しい組織が市ヶ谷にできました。それ以降はもう陸海空の自衛隊が一体となって運用される時代ということになってまいりました。

すなわち、昭和の時代は静と、静か、静と、止まっている、静とするならば、もう平成以降はもう動く、動と、動の時代になってきたと言っていると思います。

そして現在は統合機動防衛力というコンセプトの下で25の防衛計画の大綱に基づいて今、防衛力整備、あるいは自衛隊の運用が行われているという状況になっております。

この統合機動防衛力というのはちょっと聞き慣れない言葉かもしれませんが。この統合というのは陸海空の自衛隊をパックにして、1つにして運用すると、こういう意味です。日と米が共に動くのは共同と言います。共同作戦と言います。日本の陸海空自衛隊が一体となって活動するのは統合作戦と言います。まあ、すなわち、もう今の自衛隊は、陸海空自衛隊がもう1パック、一体となって行動するというのがもう当たり前。常態化しているというわけであります。従って、これをコントロールするための統合幕僚監部というのが平成19年に先立ってできていたと、こういうことになります。

それではなぜ、このような変化になってきたかということですが、さまざまな変化を経て今、周辺地域がどういう情勢かということでもあります。まあこれはちょっと見かけない図かもしれませんが、大陸の方から日本を見た、これ日本列島です、図です。ロシア、北朝鮮、中国、まあこの3カ国というのは、日本とまったく違う価値観、まったく違う政治体制の下、歴史的にもですね、日本にとっては非常に、こう難しいそれぞれの国だと言っていると思います。

まあ、それと同時にですね、今、国内では、皆さまご記憶に新しい東日本大震災、あるいはちょっとその前の阪神淡路の震災等ありますように、国内的には大規模の震災、これが実際に起きてますし、今後、もっと被害が予想される南海トラフ地震ですね。こういった地震の蓋然性、すなわち、災害の、大規模災害の発生の蓋然性と、こういったことも盛んに今、言われているところです。まあ言うなれば内憂外患と言っていると思います。力による現状変更の動き、あるいは不透明な状況が加わりまして、わが国を取り巻く安全保障環境は本当に深刻化しているというのが、私たち防衛省自衛隊の今の認識です。まあ、細部はこれから申し述べたいと思います。

そのような状況なんですが、アジア太平洋地域の安全保障環境というのを、全体のこの地域を俯瞰してみますと、まあ、このような感じになってます。細かい数字はここでは割愛しますが、ここで、申し上げたいのは、このアジア太平洋地域、特に東アジア地域というのは、大規模な軍事力が集中する特異な地域であります。多分、世界中どこを見てもですね、これぐらい、これほど大きな軍事力が、この狭いところに集中して展開している地域というのは、そうたくさんないんじゃないかと。多分、ここのエリアだけじゃないかと思えます。

そして昨今、中国の動向ですね、グローバルなそのパワーバランスの変化をもたらすような中国の現状変更の試み、こういったものも顕在化していると、こういう状況になってます。一口で言いますと、この地域は東西冷戦のそのままだが残っていると。東西冷戦が終わった後、当然、もう東西冷戦崩壊してるわけでしょうけども、この地域に関して申し上げますと、そのときよりももっと厳しい状況になっていると言ってもいいと思います。陸上戦力だけを見ても、中国とロシアと北朝鮮の陸上戦力を単純に数を足しますと、日本の陸上自衛隊の約20倍になると、こういう状況でもあります。このようなこのアジア太平洋地域、特にアジア、東アジアの地域の特性というのは、こういう状況にあるということでもあります。

その中で、北朝鮮と中国にちょっと焦点をあててお話をしたいと思います。まず、北朝鮮であります。北朝鮮はもう皆さま、ご案内のように、わが国を含む世界、国際社会の安全に対する新たな脅威というふうに、これは評価をしています。もう、その理由はもう皆さまご承知の通り、弾道ミサイル、あるいは核実験の実施、等々ですね。もうどんどん、どんどんこれを進めていると、こういう状況であります。

北朝鮮の弾道ミサイルの絵なんですけど、写真なんですけども、当初これは、どちらかという新しい順に、こう並んでいるんですけども。当初はですね、こういった発射台から発射するようなミサイルでありましたので、いつ、どこで発射するかっていうのが、ある程度、予想ができた、こういうミサイルでした。

そして、燃料も液体の燃料を使っておりましたので。液体燃料というのは、燃料を注入してから、そんな何日ももつもんじゃありませんので、大体、液体燃料を注入する時期をみれば「ああ、そろそろ、ここから。この時期に発射するのではないか」と

ということがある程度読めたと。ただ現在では、このようにターミナル型のですね、この発射、いわゆる自走式のミサイルがもう常態化してきたということで、いつ、どこから発射するか分からないと、こういう状況になっているわけです。そして昨年、数回発射をしたように、どんどんどんどん、その能力が向上してきているという状況です。

例えば、射程という観点で申し上げますと、もう北朝鮮から米大陸に届くのではないかというようなミサイルを持っていると、保持しているのではないかと、というふうにも言われています。また、ロフテッド軌道と言いまして、真上に高く上げてですね、そして落とすというような打ち方、そういう打ち方をすることによって射程をどんどん伸ばしていくと、こういう能力も身に付けている。

あるいは従前型のスカッドミサイルというどちらかというと射程の短いミサイルなんですけども、こういうミサイルですね。こういうミサイルです。こういうミサイルを改良して、同時弾着できる。4発、5発同時に発射して同時に落とすと、こういう実験も昨年行っています。

このように発射実験をするたびにですね、どんどんどんどん射程が伸びる、あるいは高い命中精度を持っているミサイルを作り上げてきていると。こういう状況になっています。そして昨年、11月だったと思いますけども、発射をしました火星の15号、火星15というミサイルがあるんですが、これは実は私の作った資料に載っていないミサイルでありまして。これはICBM大陸間弾道ミサイルと言われるアメリカの本土まで届くであろうというミサイルですね。こういったミサイルを既に保持しているのではないかと、こういう状況です。

ミサイルだけならばまだいいんですけども、その頭に乗せる核弾頭ですね。これを核実験を行うことによって、その小型化に成功しているのではないかと。頭に核弾頭を乗せて5000キロも6000キロも飛ばすミサイルを持ったときに、どういう脅威になるかというのは、もう自明でございます。もうこれは、そうなる前にしっかりと、ここは国際社会がですね、一致団結してこの北朝鮮の動きを、やはりある程度、抑制しなきゃいけないということになっていると思います。

次に中国です。もう中国は、皆さまご案内のように、これは第1列島線という線、これが第2列島線という線なんですけども、これは中国が呼んでいる線です。第1列島線、第2列島線。第1列島線というのは、このご覧のようにですね、沖縄から台湾、フィリピンに向かうこの線ですね。この第1列島線はもう自分たちの内海ですね、領海であるということをもう主張し始めています。で、今後はどうなるのか。今後は小笠原諸島からグアム、サイパン結んだこの第2列島線、この第2列島線を今度は自分たちの、もう領土領海であるというふうに主張することは、もう多分明白であると、こういう動きを今、みせているわけであります。

中国というと、皆さま、大陸国家、大陸、中国人民解放軍というのは陸軍が主体だという認識を皆さまお持ちでしょうけれども、今や、この海軍の増強というのは、もう目を見張るといいますか。急速な海軍の今、増強に向かっています。まあ、この絵はたまたま、この南西諸島を中心にした絵にしていますけども、この写真には写ってませんが、このインド洋ですね、インド洋から西側の方、もうこちらは今中国の海軍、ヨーロッパの方までですね、どんどんどんどん進出をしているというのが現状であります。

ちょっと余談になりますけども、ジブチの海賊対処活動に、今、宇都宮にございます中央即応連隊も、まあ参加をしてつい先日、帰ってまいりましたけども。このジブチというところに日本の自衛隊は基地を置いています。基地を。そしてその基地からですね、車で約30分ぐらい行ったところに中国も実はジブチに基地を作っています。もう意外とこれ報道されませんが、中国というのはもうアフリカ大陸にしっかりともう根づきつつあるという、こういう状況です。

従って、もう今は、インド洋の進出はもちろんのことながら、この太平洋方面にですね、どんどんどんどん。西太平洋方面にどんどん進出をしている。

数年前に小笠原諸島に漁船が確か100隻か集まったというニュースがございました。ご記憶の方もいらっしゃるかもしれませんが。あれはやはり、ただ単に、漁をしに来たというふうに私たちは考えておりません。やはりこの第2列島線への何らかの形の布石じゃないかというふうに当時から思っておりましたけれども、もう今や海軍がですね、こういう西太平洋まで、第2列島線の近くまで出てきていると、こういう状況になってます。

そして、海軍の軍事、ああ、失礼しました、中国軍の軍事費ですね、これも、2006年から、もう今や3倍ほどに膨らみ上がっていると。もうこれは公表ベースですので、実際にどの程度彼らが軍事費を使っているのかというのは、なかなかベールに包まれてるところもございます。

そしてまったくもって看過できないのが、この南沙諸島の動きですね。これいわゆる岩礁です。何て言いますかね、リーフっていうんですかね、ショアリーフっていうのか、そういう岩礁です。こういったところに中国は、このようにですね滑走路を造っている。これはあの、もう報道等でご承知の方もいらっしゃるかもしれませんが。まず、スウビ礁というところにおいては2016年にこれは3000メートル級の滑走路であります。もう3000メートル級というと、もう大きな爆撃機とかですね、そういったものも離発着できる。これは同じ南沙諸島のミスチーフ礁ですね。これはもう格納庫ですとか、もうしっかりとそういうインフラを整えていると、こういう状況になってます。ジョンソンサウス礁ですね。こういった、ここは埋め立てをどんどんどんどん今、進めている状況になってます。

ご覧いただいたように2013年の2月にこの状態ですね。これはちょっと古いんですが、1年、2年ほど前の絵になるわけですけども。2016年、もうこんな状態です。

ファイアーリークロス礁です。これも南沙諸島のエリアです。こちらにおいては、もう民間機も離発着しているという状況です。もうすっかり、既成事実化しているかですね、実効支配していると言ってもいいのではないかというふうに思います。当然、中国軍の哨戒機ですとか、そういったものは当然、離発着していると。

こういう南沙諸島の状況があるわけですが、わが国周辺ではどうかというのがこの絵でございます。もうこの南西諸島の一带には、もう以前から中国の公船、おおよけの船です。日本でいうと海上保安庁のような船と位置づけられる重武装した船です。これがもう、領海にはどんどん入ってきてます。

そして最近では空母遼寧がこの南西諸島の宮古と沖縄の間を縫ってですね、西大西洋まで進出をしていると、こういう状況になってます。

それではこのような状況を踏まえて自衛隊の取り組み、どのような取り組みを行っているかということについて、簡単にご紹介いたします。

これは今、ご紹介した絵と同じ絵なんですけども、これですね。中国軍5機、対馬海峡通過と。こういう、これ新聞の記事でございますが。これは確か去年の12月だったと思います。中国軍の戦闘機が東シナ海から対馬海峡抜けて日本海に入ってきて帰っていったと。こういうことがありました。当然、スクランブル、航空自衛隊はスクランブル発進をしました。領空侵犯はなかったんですけども、これはおそらく、初めてのことだろうと思います。こういう動きを現実に行っています。

さらに深刻なのは、この尖閣周辺の潜水艦か、という報道です。まあこれも、ご記憶に新しい。これは今年に入って1月の十何日かだったと思いますけども。接続水域を潜水したまま航行すると。これ当然、その浮上して航行しなきゃいけないんですけども、潜水したまま接続水域を航行したと。領海の侵犯はなかったようですけども、まあこれも後にですね、中国の潜水艦であるということをも日本の政府としては判定をしているようです。

そしてまあ、中国とこの韓国の大統領が朝鮮半島戦乱許さずということで、この握手をしてる姿ですね。こういうのもまた一方で現実に行っている状況であります。

このような状況の中で、まあ、自衛隊がどういう取り組みを行うかということですけども、もう一口に申しまして日本は6400余りの島からなる、本当にこう島国でありますので。国土は小さいですけども海岸線の長さとするとならば世界の第6位ぐらいの大きな海岸線を有する、まさに海洋国家であります。これを陸海空自衛隊が、先ほど申し上げた統合運用をもって24時間、1日365日24時間警戒監視にあたっているわけであります。

この南鳥島というところにも海上自衛官が十数名常駐して、第2列島線にこれは掛かりますから。こういったところの警戒にも任じてると。

その中でまず、対北朝鮮という意味においては弾道ミサイルのBMDの構想です。基本的には海上自衛隊のイージス艦で迎撃し、仮に、仮に撃ち漏らした場合には、航空自衛隊のPAC3というパトリオットミサイルで迎撃をします。それを航空自衛隊がしっかりと統制をします。まさに統合運用であります。

そして、今この弾道ミサイルのシステムを強化しようということになっていまして。今現在、イージス艦は4隻なんです。日本全体を守るためには2隻から3隻必要なわけで。そうするとローテーションを考えると守れません。したがって、向こう数年をかけてイージス艦を倍増しよう。8隻体制にしようとしています。PAC3のパトリオットミサイルも射程をもっと長くしようと、こういう試みを今、しています。さらに申しますと、陸上配備型のイージスシステム、イージスアショアという装備なんですけども、これアメリカの装備です。これは小野寺防衛大臣がハワイにいますイージスアショアの基地に視察に行ったという記事であります。まあこれ、今回の補正予算でイージスアショアを配置するための調査費をですね、予算も計上されているようなので、もう国としても配置する方向で、これはもう進んでいると言っていると思います。このような形で充実させようと。

そして対中国という観点では、南西諸島の防衛の強化、これがもう喫緊の課題であります。今はこの丸で困んだところにしか自衛隊はいません。配置してません。よく見ていただくとお分かりのように、もう警戒監視部隊しかありません。本土には陸海

空自衛隊の実動部隊がありますが、島々には警戒監視部隊しかございません。したがって、この島に何かがあったときにはどうすんだと、こういう状況になるわけです。

そのために今、長崎県の佐世保に水陸機動団という部隊が新しく今、新編をするように準備をしています。もうこの来月には水陸機動団という部隊がもう編成完結されます。この部隊は島々が仮に、どこかの国に上陸されたりした場合に、水陸機動団がその島を取り返すと、こういう任務を、もっぱらその任務を持った部隊です。従ってかなり厳しい訓練に今、彼らは任じています。まあ、災害派遣なんかに彼らの力というのは十分生かされるものだというふうに思っています。

このように自衛隊が大きく変化をしてきているこの平成30年なわけですけども、それでもやはり大切な、大切なのは人であります。人的基盤、ただ、その募集が今、非常に厳しい状況だということを申し上げたい絵であります。

募集人員は20数年前と変わりませんが、この対象者は40%ぐらい減っていると。こういう中で、志のある若者を今、自衛隊に入ってもらわなきゃいけないという厳しい状況です。

その中で女性自衛官の活躍。今日も佐々木が来てますけども。全体、23万5000人の自衛官の中の約6%は女性自衛官です。これを将来的にですね、10年後には9%にしようとしています。そのためにはなるべく辞めないように。女性自衛官が辞めないように、いろいろな環境を整えなきゃいけないということもあります。そして女性自衛官のリーダーになるような、この彼女たちのようなですね、こういった人材も育てていかなきゃいけないと。こういったことにも取り組んでおります。

ちなみに米軍は、軍全体の15%が女性の兵士ですので、日本の自衛隊はまだまだ少ないと。今後は女性の力もどんどん、やっぱり活用していかなきゃいけないと、こういう時代になってまいりました。

以上、駆け足で申し上げましたけども、今、防衛省自衛隊は本当に大きな改革というか、変革の時期だと認識をしています。私たち防衛省自衛隊は、もう国の防衛に任ずる唯一の組織でございますので、皆さま方のご理解、ご支援、ご協力をいただくようにですね、今後も取り組んで、行動で示してまいりたいと思いますので、引き続き、皆さま方のお力添えをよろしくお願い致します。

雑ばくなご説明になりましたけども、時間になりましたのでこれで終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。

司会 奥村晶一さま、ありがとうございました。会長より謝辞をお願いいたします。

印出井敏英会長 皆さま、いろいろ新聞とかそういうふうなものでですね、近年の状況ご存じだと思うんですけども。戦後73年、まあ日本は戦争がないわけですね。私も21年生まれですので、母父から聞くことしかありませんでした。今、私が思うのには少し、まあ、平和ぼけっていうような表現が悪いのかもしれませんが、こういう地域の状況に関心を持つ人が少なくなっているのかなと思うんですね。

やはり、日本は戦争はしないということは、当然なんですけど、相手の国から殴られてもずーっと耐えているのかというのが、私の考えなんです。ですからやはりある程度、いろいろなことをされたら、それに対して強く出なきゃいけないんじゃないか、というのが私の考えであります。

まあこれは、いろいろ皆さん考え方があっていいかと思いますが。ただそういうふうな中でもですね、この自衛隊がきちっとこれから成長をされて、そしてさら

に日本の国民の財産ですね、生命、そういうふうなのを守っていただくためには、われわれはもう少しいろいろ応援をしなければいけないんじゃないかと私は思っています。

どうぞ奥村さまも健康に留意されて国のためにますますご活躍されんことをお祈りいたしまして私のあいさつに代えさせていただきます。どうも、ありがとうございます。

司会 次回の例会は2月13日、卓話はホリプロアナウンス室所属フリーアナウンサー須賀由美子さま。演題は「アナウンサーのしゃべり方のポイント教えちゃうぞ！&手紙、朗読で思いを伝えるということ」です。たくさんの皆さまのご出席をお待ちしております。

会長、点鐘をお願いします。

(点鐘)

司会 以上で本日の例会を終了いたします。ありがとうございました。

今日の食事



- ・ 中国料理弁当
- ・ エビの卵白ソースいため
- ・ 豚肉の黒酢ソースかけ
- ・ 鶏の唐揚げ
- ・ 春巻き
- ・ ザーサイ

- ・ ご飯
- ・ フカヒレ餃子
- ・ スープ

会報委員 後藤 裕通
写 真 小林 健二